

第 8 回宇治市地域コミュニティ推進検討委員会 発言の要旨

日 時 平成 26 年 12 月 15 日 (月) 14 : 00 ~ 16 : 00
場 所 市役所 8 階 大会議室
出席者 森委員長ほか委員 12 名

発言の要旨

【加入・設立促進での開発業者への指導】

提言上、具体的にどうするかは、市の取り組みの現状を確認した上で検討する。

【担い手の育成】

研修やセミナーなどについて、特にコミュニティのニーズが高いテーマは、関係課と連携し、より多くの方が参加できるような仕組みづくりが必要かと思う。

担い手は、普通の町内会・自治会では 1 年で代わる。1 年で代わる人を担い手とするのか、ある程度、少なくとも 3 年以上してくれる人を担い手とするのかによっても育成の方法というのは変わってくるので、その辺りも分けて考えた方がいい。

「町内会・自治会の手引き」を作成する中では、初めての人が 1 年乗り切るための部分、より地域活動に目覚めてリーダーシップをとって頂く方に見ていただく部分を違うように構成しているが、研修もまさに同じで、育成するメニューやターゲット、ゴールを変えて、多様な研修やセミナーを展開する必要がある。

【若年層の意識～HPの活用】

宇治市の中でも多様性があるという議論が、今まで多くされている。その中で一括して、仕組みづくりの面で、町内会・自治会やコミュニティに積極的に参加しようという人たち目線で作ってしまうと、閉ざされた世界になってしまうし、若者の感覚と上の世代とでは隔たりがあるということも考えないといけない。あと数年すればコミュニティの中心となって頂かないといけない若手の会員を意識した仕組みづくりは大事。はじめての人が、例えば同年代の人がたくさんいる場合は情報交換もスムーズにできるけれども、高齢者世代の中に置かれたらついていけないということもあると聞く。

HP の活用とか、今の若い方はインターネットやスマホの中で情報交換をすごくして

いる。スマホの中でたくさんのコミュニティを持っている。そういう部分で、情報がすぐに取り出せるような安心した情報のソースとして宇治市が配信してほしい。どうしてもSNSの世界になると難しいこともあるので、そういうのに感化されないHPの活用もしていくべき。今の若い人に向けたやりやすい方法を組み込めないか。

【市組織の強化】

市組織の強化もあるが、市がどれだけ町内会・自治会活動に支援をしていけるかということだと思う。そのような表現の方がいいのではないか。庁内連携も大事だが、色々な市以外の組織にも相談体制を求めるということもあったので、そのあたりも柱としては大事ではないかと思う。

アウトリーチ（地域に出かけていくこと）をどこまで本当に進めていこうと考えるのかは、議論で何度も出てきていたと思うので、するならできる体制を整えていくということが必要だと思う。

【市の相談機能】

地域活動が困難になってきていて、様々な課題が生じてきている。市が相談機能を持つ余裕がないということであれば、相談できる場につなぐ仕組みが必要。

相談機能として、ワンストップが宇治市でできるのかどうか、庁内で議論していただくべきかと思う。

【市以外の人材の活用】

何でもかんでも市でやらないといけないと考えると、逆に行き詰まりを感じることもあるかと思う。場合によっては、市以外に人材を求めることを検討すべき。

市の職員云々ということもあるが、もっと地域に活かせる人材がいる気がする。うまく募集できる呼びかけをする機会作りをすればいい。

【地域連携ネットワーク】

前回の委員会では、どういう単位でネットワーク化や連携組織を作るのかということに相当議論したが、概ね小学校区に組織が作られることが理想的だということについて

は緩やかな合意がされたと思う。

一方で、小学校区と地域コミュニティがイコールでないところが相当にあるなど、現実的にはクリアしないといけない問題が相当ある。

ただ、小学校区という単位が重要であることには間違いがないし、組織のネットワークの手がかりにしていくことは重要。どのようにするかということは改めて時間をかけて検討しないといけない。

【地域コミュニティの理想形】

提言というからには宇治市の地域コミュニティはこうありたい、こうあるべきだというのがどこかに出てくると期待している。地域コミュニティに何を求めていくのか、絶対こうでなければいけないというような提言をするのは無理だが、理想形はいると思う。

地域コミュニティに求める役割や理想形は、一定書けると思うが、町内会・自治会の話なのか、コミュニティ組織一般の話なのかということについて、意見がまとまっていないと感じる。結局、「5．地域連携ネットワークのあり方の検討および連携できる仕組みづくり」の部分の連携できるような仕組みづくりをしましょうというのが今回の提言への議論の中では一番新しく、今後のコミュニティ活動の形を変えていくものになるのではないかと考えている。望ましいコミュニティはこうだと書くのではなく、それを実現するための仕組みを作らないと形にはならないというのがこの「5」ではないか。ただ、そういうものをきちんと前に出して書いた方がより伝わるし、分かり易いということであれば少し構成を変えて工夫しないと埋もれてしまっているかもしれない。

「5」で仕組みづくりなどある程度モデル的なことを書き、それぞれの地域の実情に合わせた創意工夫が大事と言われているので、理想形は書くけども、これがすべてではないという書き方もあるかと思う。地域に合った形でそれぞれ考えていけたらいい、そのための相談・支援体制を整えますということにすればどうかと思う。